

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-152	16-017	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
<p>Longitudinal association between different levels of alcohol consumption and a new onset of depression and generalized anxiety disorder: Results from an international study in primary care.</p> <p>飲酒量とうつ病及び全般性不安障害の新規発症の経年的な関連：プライマリーケアの国際的研究より</p>		
執筆者		
Bellos S, Skapinakis P, Rai D, Zitko P, Araya R, Lewis G, Lionis C, Mavreas V.		
掲載誌		
Psychiatry Res. 2016 Sep 30;243:30-4. doi: 10.1016/j.psychres.2016.05.049.		
キーワード		PMID
禁酒、飲酒、うつ病、全般性不安障害、前向き研究、WHO		27344590
要 旨		
<p>目的： 飲酒量と一般的な精神障害は直線的な関係ではないとする研究報告がある。これらの研究のほとんどは横断的研究であり、非特異的な手法を用いて精神疾患の罹病率を評価している。今回の目的は研究開始時の飲酒量の違いとうつ病及び全般性不安障害（GAD）の新規発症を大規模な国際的なプライマリーケア患者集団において研究することである。</p> <p>方法： 精神健康における精神医学的な問題に関する WHO 共同研究に参加している 14 カ国から 3,201 人のプライマリーケアにおける患者が対象である。研究開始時の飲酒は AUDIT（The Alcohol Use Disorders Identification Test; アルコール使用障害同定テスト）を用いて評価し、精神障害は世界保健機構複合国際診断面接法により評価された。</p> <p>結果： 研究開始時の軽度から適量の飲酒者は非飲酒者に比べ、うつ病及び GAD の発症が少なかった。一方で過剰飲酒の者はうつ病の発症の増加と関連したが、GAD 発症との関連は認めなかった。この関連は可能な限りの交絡因子を調整した後も大きな影響は受けなかった。</p> <p>結論： この関連の因果関係を観察研究で明らかにするのは難しい。異なった見地から、さらに共同的で継続したエビデンスの構築が必要である。</p>		